

イベント

久喜市社会人権教育指導者養成講座

- 日** 2月3日(木) 14時～15時30分 / 受付13時30分
- 場** 久喜総合文化会館 小ホール
- 内** 人権が尊重され、差別や偏見のない社会を
- 講** 水島輝彦さん(部落解放同盟埼玉県連合会副執行委員長)
※手話通訳あり
- 対** 市内在住・在勤・在学者
- 定** 308人(当日会場先着順)
- 問** 生涯学習課人権教育係 (内線 216)

鷺宮児童館の催し

- ◆**プチランド①(サーキット遊び・子育て広場)**
- 日** 1月26日(水) 10時30分
- 定** 30組 **申** 1月11日(火)～18日(火)
- ◆**プチランド②(お買い物ごっこ)**
- 日** 2月14日(月) 10時30分
- 定** 20組 **申** 1月25日(火)～2月1日(火)
- ◆**遊ぼうデー(ポンポンカーリング)**
- 日** 1月29日(土) 10時 / 11時 / 14時30分 / 15時30分
- ◆**わくわくランド**
- 日** 2月3日(木) 10時30分
- 内** 節分製作、豆まきごっこ、子育て広場 **定** 30組
- 申** 1月17日(月)～24日(月)
- ◆**ミニお話タイム・のびのびタイム**
- 日** 2月8日(火) 10時30分
- 内** 「おむすびころりん」(エプロンシアター)
- ◆**チャレンジランド**
- 日** 2月12日(土) 14時
- 内** 季節の折り紙製作
- 定** 15人 **申** 1月25日(火)～2月1日(火)
- 【共通】**
- 場** 鷺宮児童館 ※プチランド①、わくわくランドは鷺宮東コミュニティセンター
- 対** 幼児・保護者 ※遊ぼうデーはどなたでも、チャレンジランドは小学生
- 問** 鷺宮児童館 ☎58-7054

児童センターの催し(豆まき)

- 日** 2月2日(水) 10時30分
- 対** 幼児と保護者
- 定** 30組(申込順)
- 申問** 1月16日(日)～23日(日)に、直接児童センター(☎21-8181)へ(電話・代理申込不可)



ヴェネチアングラス教室


- 日** 2月8日・15日・22日、3月1日 各火曜日 13時30分～15時30分
- 場** 内下集会所(鷺宮160-11)
- 内** ヴェネチアングラスを使って、大人のかわいいオシャレ小物(ネックレス等)を作る
- 講** 桂平洋子さん
- 対** 成人 **定** 10人(申込順)
- 費** 1,500円(材料費)
- 申問** 1月11日(火)～21日(金)に、電話で生涯学習課人権教育係(内線 217)へ

久喜んこのお知らせ

- ◆**子育てサロン「みんなの木」**

日程	時間	場所	定員(申込順)
1/25(火) 2/22(火)	10:00～12:00	ふれあいセンター久喜	8組
2/8(火)	(時間内出入り自由)	古久喜集会所(久喜北1-6-29)	6組

- 内** 子どもと大人の遊びの場です。
※開催状況は久喜んこホームページでご確認ください
- 申問** 各回とも前日の10時から、子育てネットワーク・久喜んこ(☎080-9527-7354)へ
- ◆**おしゃべりサロン「くきんこ」**
- 日** 1月27日(木) 10時～12時
- 場** ふれあいセンター久喜2階視聴覚室
- 内** プレイコーナーを用意した会場で、お子さん連れでも大丈夫です。ゆっくりお話しませんか。
- 対** 子育て中の方
- 定** 5人程度(申込順)
- 費** 100円
- 申問** 1月10日(祝)10時から、子育てネットワーク・久喜んこ 松永(☎090-1697-2735)へ



HIV感染者、エイズ発症者の人権について

- ◆**HIVやエイズを正しく理解しましょう**
エイズ(AIDS:後天性免疫不全症候群)は、HIV(ヒト免疫不全ウイルス)による感染症です。感染経路は性的接触、血液感染、母子感染の3つに限られ、感染力も弱いため、学校・職場・家庭等での日常生活で感染することはありません。また、HIVに感染しても治療の継続により、エイズの発症を防ぐことができます。
- ◆**差別や偏見をなくすために**
病気に対する正しい知識や理解の不足から、感染を理由に仕事を解雇されたり、医療機関で診療を拒否されたりするなどの人権侵害が起こっています。こうした差別や偏見をなくすためには、一人ひとりが正しい知識を持つこと、また患者や感染者、その家族などが置かれた立場を理解することが大切です。
- ◆**「レッドリボン」の輪が広がっています**
アメリカでは、エイズが社会的な問題となりつつあった30年前から、エイズで亡くなった仲間に対する追悼の気持ちとエイズに苦しむ人々への理解と支援の意思を表すため、レッドリボンシンボルとする運動が始まり、今では国境を越えた世界的な運動に発展しています。私たちの周りにもレッドリボンの輪を広げていきませんか。
- 問** 健康医療課健康企画係(内線3422)

